

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 1	理念・目的
------	-------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項 <input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0102	【2020 年度時点の課題】 学科紹介パンフレットの紙版は大学の方針で改訂版を作成しないことになったため、文言の齟齬の解消を指示された前回のピアレビュー以降に（残部多数につき）改定する機会を得られなかった学科は、残部がなくなるまでは多少の表現の齟齬があることになる。HP上のデジタルブック版は紙版をもとに作成しているため、改定ができなかった学科について今後どうするかを検討する必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
その後、2022 年度 1 月の主任会において、オープンキャンパス時などには、個別学科の詳しい紹介パンフレットを用いながら説明したほうが効果的であるという意見が多数だったため、新規に制作する新学科（コミュニケーション学科）以外の各学科の既存の学科紹介パンフレットを更新して増刷した [1120h pp.75-76]。ただし、その後すぐに大学の WEB ページがリニューアルされ、各学科のトップページに掲載されていた学科紹介パンフレットのデジタルブックは非公開となったため、現在は紙版のみとなっており、『大学案内』の各学科の内容が掲載されている [0102a]。今後、できるだけ早い時期に更新されたデジタルブックを学科の WEB ページに再度掲載する予定。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項 <input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0102	【2020 年度時点の課題】 今後の文系学部再編整備充実にとまなない、現行の教育研究上の目的と育成する人間像をそのまま引き継ぐか否かを検討。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度秋学期に大学全体で 2024 年度に向けての DP の改訂が行われ、各学科で現時点でのベストと考えられる DP に改訂することができた [0102b]。現在は DP に合わせた CP、および カリキュラムマップ、カリキュラムツアーなどの提出が終わり、修正依頼を待っているところである。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0101	【新学科・新専攻設置時のみ】 大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	自己評価	S
評価の視点	(2)学部（学科）・研究科（専攻）の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。			

	(3)学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。 (4)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性がありますか。
現状説明	
コミュニケーション学科では、「メディア情報社会学科」の設置に向けて、届出申請用の書類作成過程において、大学の基本理念・使命・教育目的を踏まえ、かつ、新学科の特色を明確に示す形で教育研究上の目的を策定し、それに合わせて育成する人間像も明記した[0101a]。	

自己点検・評価項目	0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	自己評価	S
評価の視点		(1)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やWebサイトなど)間の記述の統一 (2)刊行物、Webサイト等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等を周知・公表していますか。 ・学生・教職員への周知 ・社会に対しての公表		
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> 学部学科の教育研究上の目的、および、育成する人間像は、『学生便覧』(HPページに公表)、大学HP上の各学科のページ、および「情報公表」のページにおいて広く社会に公表されており、これらの間では記述の齟齬はない。[0102c p.③][0102a][0102d]学科紹介パンフレットなど、高校生向けに特化した媒体では、多少平易な表現を用いている学科もあるが概ね統一されている[0102e]。 大学の基本理念・使命・教育目的、学部の教育研究上の目的等は、大学HPの「情報公表」のページで広く社会に向けて公表しており、また、毎年度1年生の「スタートアップセミナー」で新入生に周知し、大半の教員がこの科目を担当するため、教員にも承知できている[0102f][0102g]。 				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0102	<ul style="list-style-type: none"> 高校生向けには、オープンキャンパスなどで使用するための各学科が学科紹介パンフレットを制作しており、その中で学科が育成する人間像が平易な言葉で記載されている[0102e]。
項目 No. 0102	<ul style="list-style-type: none"> 大学の基本理念・使命・教育目的、学部の教育研究上の目的等は、毎年度1年生の「スタートアップセミナー」で学生に周知させている[0102g]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み(予定)および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0101	教育上の目的や育成する人間像に関する検討の基準や点検の基準が明確になっていない。
今後の改善・向上方策	
学科会議で学科の教育研究上の目的や育成する人間像を検討したり確認したりする際に、学科教員間で共有できるように、今後、どのような観点で検討、点検をするのかの基準を設けていく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0102	外部の立場に立ち、大学Webサイトにある学科の教育研究上の目的等の確認を行う必要がある。

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 人文学部

基準 2 内部質保証

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0203	学部内・学内のピアレビュー受審以外の外部評価を受けるシステムがない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学内のピアレビュー受審以外の外部評価を受けるために、定期的に受審できる、ふさわしい機関を探しているが、「マッチポンプ」（つまり受験産業がらみ）ではない、信頼できる適切な機関は未だみつかっていない。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	自己評価	A
評価の視点	(5)外部評価を自己点検・評価に取り入れていますか。 ・学内のピアレビューは含まない			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none">外部評価に代わるものとして、学部内で学科間相互レビューを実施することになっているが、学外の外部評価に関しては適切な機関が見つからないため、現状点検・評価に取り入れていない [1120h pp.3-4] [0203a]。なお、学部内の学科間相互レビューは 2020 年度に実施したが、その後各学科とも COVID-19 への対応に時間をとられ、2021 年度・2022 年度の実施は見送った。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0203	自己点検評価の結果について、学部内の学科間でピアレビューを行っている。[0203a]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0203	学内のピアレビュー受審以外の外部評価を受ける機会がない。
今後の改善・向上方策	
引き続き、学内のピアレビュー受審以外の外部評価を受けるためのふさわしい機関を探す。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0203	歴史地理学科では、教育や学内行政の点検は手厚いのに比して、研究が過小に評価されていると感じている。
今後の改善・向上方策	
今後、研究についても、教育や学内行政などと同等に評価できる具体的な点検基準を導入することを検討する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	0203 外部評価に代わるものとして学科間相互レビューを2020年度に実施しているが、2021年度、2022年度COVID-19のため見送られている。年度ごとに項目を絞ったレビューを実施するなど、無理のない形で継続されることが望まれる。
長所・特色	0203 学科間相互レビューを2020年度に実施された点は、外部評価を受ける機会がない学科では内部保証システムの有効な機能として代用でき、他学部においても参考になるものと考えられる。
留意点	*各項目に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 4	教育課程・学習成果 (1)
------	---------------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
特になし	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	自己評価	S
評価の視点	(1)授与する学位ごとに、当該学位にふさわしい学習成果（課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等）を明示したDPを適切に設定していますか。 (2)授与する学位ごとに、DPを社会に対して公表していますか。			
現状説明	人文学部5学科のDPは、大学の方針に従って「社会で必要とされる知識・技能」、「知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力」、「主体性をもって多様な人間と協働し、学び続ける態度」、「広い関心・自律的意欲」の4領域の能力について適切に設定されている。また、DPは、大学HP上の「情報公表」のページや『学生便覧』で広く公表されている。毎年、便覧改定の際に学科主任を中心とする学科の教務委員が点検している[0401a][0102c pp.19-26 学部学科DP] [0401b]。 また2022年度には、大学全体、および、学部の学位授与方針（DP）と共に各学科がDPの見直しを行った。この改訂は、2024年度入学生より適用される [0401c]。			

自己点検・評価項目	0402	授与する学位ごとに、教育課程編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	自己評価	S
評価の視点	(1)授与する学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えたCPを設定していますか。 (2)授与する学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えたCPを設定していますか。 (3)授与する学位ごとに、CPを社会に対して公表していますか。 (4)CPとDPの関連性は適切ですか。 ・CPとDPの整合性			

現状説明	
<ul style="list-style-type: none"> 学部各学科の CP は、DP に掲げた目標達成のために、「教育内容」、「教育方法」、「教育評価」を定めて、全学共通教育科目、人文学部共通教育科目、学科横断的教科などを体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせることを明記しており、大学 HP の「情報公表」のページ、および、『学生便覧』において公表している[0401a][0102c pp.19-26 学部学科 CP]。 毎年の便覧改定の際には学科主任を中心とする学科の教務委員が点検している[0401b]。 また、2024 年度から適用される 改訂版の DP との整合性を保つため、2023 年 3 月には、各学科が、CP の改訂版、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの改訂版を教務支援課へ提出し、2023 年度をかけて最終案を作成することになっている [0402a]。 	

自己点検・評価項目	0403	教育課程編成・実施の方針 (CP) に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	自己評価	S
評価の視点	<p>(1)CP と教育課程の整合性はとれていますか。</p> <p>(2)教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。(ナンバリング、カリキュラムマップ)</p> <p>(3)単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。 ・授業科目の性質、授業時間外に必要な学習を考慮した単位数の設定</p> <p>(4)個々の授業科目の内容および方法は適していますか。</p> <p>(5)授業科目の位置づけ (必修、選択等) は適切ですか。</p> <p>(6)各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等</p> <p>(8)学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。</p>			

現状説明	
<ul style="list-style-type: none"> 各学科とも、CP と教育課程との整合性について特に留意して検討しており、教育課程の編成に当たっては、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する科目ナンバリングに留意して、CP に沿った体系的、かつ、学習内容の順序性を考慮した科目の配置を行い [0403a]、カリキュラムマップによってその体系を明示している [0403b]。 各学科とも、シラバスの第三者点検によって、学科の授業のシラバスが、教育課程の編成・実施方針にそった授業内容、授業方法になっているか、授業科目の性質、授業時間外に必要な学習を考慮した単位数の設定となっているのかを点検している[0403c]。 各学科とも、主任を中心とする教務委員が、翌年度の授業編成作業時に、「カリキュラムの中での位置付け」と DP に対応した「身につく基礎力」、単位制度の趣旨に沿った単位設定であること、選択/必修などの設定を確認している。これらの項目は、Web ページ上のシラバス入力の際には固定されており、科目担当者は、これらに留意しつつ授業の「具体的達成目標」を設定している [0403d]。 各学科とも、初年次教育、キャリア教育等は、全学共通教育科目として適切に配置されている。また、各学科とも、春学期の全学共通教育科目の「スタートアップセミナー」に接続する初年次科目を設定しており、また、教養教育と専門教育が適切に配置された教育課程となっている [0102c pp.153-200 各学科教育課程表]。 学部共通科目として、「ビジネススキルアップ AB」「インターンシップ ABC」などを配置して、学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施している[0102c pp.153-200 各学科教育課程表]。また、教職課程、学芸員課程、司書課程、日本語教員養成講座など、取得可能な資格の充実を図っており、資格取得に意欲のある学生に対応できるようにしている [0102c pp.201-210 教職][0102c pp.396-398 学芸員][0102c p.399 司書][0102c pp.400-402 日本語教員養成講座]。 英語英米文化学科では、より CP を体現するのに適切な教育課程となるよう、2024 年度に向けて一部の科目を廃止し、科目を新設した [0403e]。 コミュニケーション学科では、制作や地域貢献活動と副論文を合わせて卒業研究とすることを可能とし、企業、自治体等との連携した SDGs プロモーションや地域貢献活動などを実施し、学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を意識して社会人との協業や世代間交流等を体験できる授業科目を備えている [0403f]。 	

- 心理学科では、公認心理師資格対応のために2018年度に改編した教育課程について、2021年度の完成年度に、学科教員全員で単位の設定および授業内容と方法、授業科目の位置づけ、配置の適切性等についての確認・見直し作業を行った[1120s p.17][0403g]。また、公認心理師対応科目については、特に、2017年9月に厚生労働省より通知された「公認心理師法附則第2条第1項第1号から第4号までに規定する公認心理師になるために必要な科目の取扱いについて」に基づき、授業科目の内容と方法を設定している[0403g]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0403	学部共通科目として、「ビジネススキルアップ AB」「インターンシップ ABC」などを配置して、学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施している[0102c pp.153-200 各学科教育課程表]。
項目 No. 0403	資格等の取得可能な教職課程、学芸員課程、司書課程、日本語教員養成講座の充実を図っている[0102c pp.201-210 教職][0102c pp.396-398 学芸員][0102c p.399 司書][0102c pp.400-402 日本語教員養成講座]。
項目 No. 0403	コミュニケーション学科では、企業、自治体等との連携したSDGsプロモーションや地域貢献活動などを実施し、社会人との協業や世代間交流等を体験できる授業科目を備えている[0403f]。
項目 No. 0403	心理学科では、2018年度の公認心理師資格対応教育課程改編について、完成年度（2021年度）に、学科教員全体でCPと教育課程の整合性について検討している[1120s p.17]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0403	学科によっては主任等が一手に行っていたり、詳細に点検する人とそうでない人との差があったりするため、シラバスの点検の意義を各教員が再認識し、点検の体制を見直す必要がある。
今後の改善・向上方策	
点検結果を議論する場を設けるなど、シラバス点検のシステムを見直す。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0403	教育課程の適切性に関して、定期的な確認と点検のための方法が手薄。
今後の改善・向上方策	
IRデータ（学びに関する調査、GPS-Academicなどと個別学生の属性）を分析して、教育課程の適切性を定期的に検討する場を設けることを検討する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0402	カリキュラムツリー（カリキュラム系統図）をさらにわかりやすくしていく必要がある。
今後の改善・向上方策	
カリキュラムツリー（カリキュラム系統図）には、科目間の関連性の他、DPとの関連、また科目区分等、盛り込まなくてはならない情報が多いため、わかりやすい図を作成する方法を検討して改善していく。	

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 4 教育課程・学習成果 (2)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0404	授業内容とシラバスとの整合性の確保に関しては、学期末に実施される学生による「授業評価」アンケートの集計結果や自由記述、教務モニター制度の学生意見等から間接的に検証しているが、改善については科目担当者の裁量に任せられている。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
現状では組織的な改善方法を見出すには至っていないが、学期末の「授業評価」や教務モニターの学生らの意見をもとに、授業内容とシラバスの整合性欠如の指摘が多数、継続的になされる場合は、学科主任が改善を促すなどの方策を今後検討する。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0405	成績評価方法の客観性・厳格性に関しては、単独担当者科目においては、実際に客観的かつ厳格に成績評価が行われているかを組織的に確認しているわけではない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
現状では、具体的な確認方法は提示できていないが、学期末の「授業評価」や教務モニターの学生らの意見をもとに、客観性・厳格性の欠如の指摘が多数、継続的になされる場合は、学科主任が改善を促すなどの方策を今後検討する。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	自己評価	S
評価の視点	<p>(1)【学部のみ】各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。</p> <p>(2)シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保 <p>(3)授業計画や成績評価の方法を変更した際、学生への周知を適切に行っていますか。</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容・方法の変更等に伴う対応 (4) 学生の主体的参加を促す授業形態，授業内容および授業方法を講じていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保 ・グループ活動の活用 (5) 学生の理解度，学習の進捗を適切に確認，把握していますか。 (6) 課題の量・質，フィードバックの方法は適切ですか。 (7) 授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・履修指導は適切に実施していますか。 【修士課程，博士課程】 <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導計画（研究指導の内容および方法，年間スケジュール）を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。
--	--

現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ● 学期ごとの履修登録単位数の上限設定等は、『学生便覧』に明記して全学的に学生に周知している [0102c p.154, p.162, p.174, p.183, p.193]。 ● シラバスには，授業の主旨，具体的達成目標，授業計画，授業方法，成績の評価方法および評価基準等を明示しており，記載内容に関しては全学的に第三者点検活動を実施している[0403d]。 ● 授業内容とシラバスとの整合性の確保に関しては，学期末に実施される学生による「授業評価」アンケート，特に設問3の集計結果や自由記述，教務モニター制度の学生意見等から間接的に検証しているが，改善については科目担当者の裁量に任せられている[0404a]。心理学科では，公認心理師科目については，日本心理学会における公認心理師標準カリキュラム等に則ってシラバスを作成し，公認心理師となるうえで必要な内容を網羅していることを確認している [0404b]。授業計画や成績評価の方法に変更が生じた際は，初回のガイダンスや該当の授業回に告知を行うが，基本的に授業担当者に委ねている。 ● 学生の主体的参加を促すために，アクティブラーニングの要素を多く取り入れた教育方法を実践することを CP の②研究方法の(7)に定めており，CPに沿った授業計画となっているかについては，シラバスの第三者点検により確認している[0102c 学部学科 CP][0403c]。日本語日本文化学科では，1年次の「基礎演習」等の演習科目において，学生の主体的参加を促す授業形態，授業内容および授業方法を講じている[0404c]。コミュニケーション学科では，OJT 型の地域貢献活動ゼミ「文化情報デザイン・プロジェクト ABCD」を設置してアクティブラーニングを促進している [0403f]。心理学科では，特に実習演習科目では，心理学に関する実験や調査，心理学のテーマや論文についての発表およびディスカッションという授業形態をとっており，学生の主体参加が必須の授業として，1～3年次に渡って配置している[0404d]。 ● 学生の理解度，学習の進捗は「授業評価」，特に設問7の集計結果や自由記述，「学びに関する調査」，特に設問2の集計結果から，確認し把握している[0404e][0404f]。心理学科では，学習の理解度が著しく低く，顕著な困難を抱える学生について，心理学会会議において情報共有されている[1120s p.33]。 ● 課題の量・質，フィードバック方法などはシラバスに記載されており，課題の内容や授業前後学習，フィードバックについて事前告知を行っている[0403d]。変更が生じた際は授業内で告知を行うが，手段については各授業担当者に委ねているが，学生による「授業評価」，特に設問6，「学びに関する調査」の設問3などの集計結果が公表されているので，必要に応じて課題の量・質を調整できるシステムとなっている[0404a] [0404e] [0404f]。 ● 授業編成および管理運営に関して，授業形態や内容，必要設備等に応じて受講者数の制限を設けている[0404g]。また，各学科，授業形態に配慮した受講者数の制限に関しては，毎年の授業編成の際に教務支援課から提供される科目ごとの受講者数一覧を参考に，学科主任を中心とする各学科の教務委員が検討し，適正であることを確認している [0404h]。各学科とも，必修科目などでは複数クラスを設置し，少人数クラスにすることで全受講生に目が行き届くよう配慮している[0404i]。英語英米文化学科では，CPに沿った授業内容で学生の英語力を向上させるために複数クラスを設定し，少人数クラスで授業を展開している[0404j]。コミュニケーション学科では，使用機材に台数制限のある制作系の科目では，人数制限を設けて少人数クラスを編成している[0404g]。心理学科では，すべての演習・実習科目について複数の教員を配置することで，受講者をグループ分けし，少人数の授業となるように対応している[0404d]。 ● 履修指導に関しては，毎学期開始前のオリエンテーション内で行い，履修に関する個別相談の時間を設けている [0404k]。コミュニケーション学科においては，上級生による「履修ピア」制度を設けて履修関係のアドバイスをを行っている。1年生に関しては，ピアサポーターが通年担当する[0404l]。
------	---

自己点検・評価項目	0405	成績評価，単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	自己評価	S
評価の視点	(1)シラバスに掲げている「達成目標」に基づき，成績評価がなされていますか。 ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価 (3)成績評価の客観性，厳格性を組織的に確認していますか。 (6)学位論文審査がある場合，学位論文審査基準が明確に示され，かつ公表されていますか。 (7)学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するために，評価の基準，評価のレベルを示したルーブリックを用いた評価がなされていますか。 (8)学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。 (9)適切な学位授与を行っていますか。			
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> シラバスに掲げた「達成目標」に基づく「成績評価の方法」「成績評価の基準」に従って成績評価が実施されているかについては，複数担当の授業の場合は成績責任者が他の授業担当者と合議の上，厳正に成績評価を行っている [0405a]。英語英米文化学科では，複数の教員が同一名称科目を担当する場合は，統一基準に基づいて受講生を評価し，担当教員によって難易度の差がでないよう特に配慮している [0405b]。 単独担当の授業に関しては担当教員の裁量に任されており，成績評価の客観性・厳格性を組織的に確認する組織的なシステムはないが，成績評価に疑問がある場合，受講生が一定期間内に確認を願い出ることができる制度を全学的に設けている [0405c p.2, p.8]。心理学科では，教育心理学的知見に則り，授業毎に授業での取り組みや課題や試験の成績をシラバスに記した客観的な「達成目標」と照らす到達度評価を実施し，シラバスに記載した評価基準に基づいた客観的かつ厳格な評価に努めていることを確認した [1120s p.17]。 学位審査の客観性および厳格性を確保するために，学位論文審査基準は各学科の「卒業研究」のシラバスの「成績評価方法」「成績評価基準」に項目として明記されている [0405d]。また，人文学部の各学科では，2018年度より4つの DP に示した力の習得度と，卒業論文の形式，質についての達成度を段階分けしたルーブリック評価表を作成し，公表して，客観的で厳正な評価が行えるよう努めている [0405e]。「副査制度・複数教員による卒業論文執筆要項」「卒業論文規程」「卒業研究マニュアル」などに「卒業論文評価表」や「学位論文審査ルーブリック」・審査基準などを示し，口頭試問や卒業研究発表会などにより，各学生の4年間にわたる学修成果の到達度等を客観的かつ厳正な評価を行うよう努めている [0405f] [0405g]。 学位授与に係る責任体制，および，手続きは，中部大学学位規程に示されている。学位授与には，中部大学学位規程に則り，人文学部教授会において卒業認定がなされ，中部大学学位規程に則り卒業認定されたものに授与される [0405h] [1120d p.106]。 			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの，有意な成果がみられるもの，他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0404	英語英米文化学科では，CP に沿った授業内容で学生の英語力を向上させるために複数クラスを設定し，少人数クラスで授業を展開している [0404j]。
項目 No. 0404	コミュニケーション学科では，OJT 型の地域貢献活動ゼミ「文化情報デザイン・プロジェクト ABCD」を設置してアクティブラーニングを促進している [0403f]。
項目 No. 0404	心理学科では，公認心理師科目については，日本心理学会における公認心理師標準カリキュラム等に則ってシラバスを作成し，公認心理師となるうえで必要な内容を網羅していることを確認している [0404b]。特に実習演習科目では，心理学に関する実験や調査，心理学のテーマや論文についての発表およびディスカッションという授業形態をとっており，学生の主体的参加が必須の授業として，1～3年次に渡って配置している [0404d]。
項目 No. 0405	「副査制度・複数教員による卒業論文執筆要項」「卒業論文規程」「卒業研究マニュアル」などに「卒業論文評価表」や「学位論文審査ルーブリック」・審査基準などを示し，口頭試問や卒業研究発表会などにより，各学生の4年間にわたる学修成果の到達度等を客観的かつ厳正な評価を行うよう努めている [0405f] [0405g]。

項目 No. 0405	英語英米文化学科では、複数の教員が同一名称科目を担当する場合は、統一基準に基づいて受講生を評価し、担当教員によって難易度の差がでないよう特に配慮している [0404j]。
項目 No. 0405	人文学部の各学科では、2018 年度より 4 つの DP に示した力の習得度と、卒業論文の形式、質についての達成度を段階分けしたルーブリック評価表を作成し、公表して、客観的で厳正な評価が行えるよう努めている [0405e]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0405	単独担当者による授業の場合、成績評価は担当者の判断に任されているため、成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認するシステムがない。
今後の改善・向上方策	
学期末の「授業評価」や教務モニターの学生らの意見をもとに、客観性・厳格性の欠如の指摘が多数、継続的になされる場合は、学科主任が改善を促すなどの方策を引き続き検討していく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0404	シラバスと授業内容と整合性については、「授業評価」の結果から間接的に検証するしかない。
今後の改善・向上方策	
学期末の「授業評価」や教務モニターの学生らの意見をもとに、授業内容とシラバスの整合性欠如の指摘が多数、継続的になされる場合は、学科主任が改善を促すなどの方策を引き続き検討していく。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0404 「学生の主体的参加を促すために、アクティブラーニングの要素を多く取り入れた教育方法を実践する」ことに各学科が取り組んでいる【0403f】【0404c】【0404d】。また「各学科とも、必修科目などでは複数クラスを設置し、少人数クラスにすることで全受講生に目が行き届くよう配慮している」点についても、各学科の特性に応じた工夫が見られる。【0404i】【0404j】【0404g】【0404d】	
長所・特色	
0404 「コミュニケーション学科においては、上級生による「履修ピア」制度を設けて履修関係のアドバイスを行っている。1 年生に関しては、ピアサポーターが通年担当する【0404i】という点は、独自の取り組みとして評価できる。この点に関し、人文学部として「長所・特色」に挙げていない理由を尋ねたところ、「記載漏れ」との回答を得た。学ぶべき取り組みと思われるので、ヒアリングの場で、具体的な実施方法の説明をお願いした。	
0405 「副査制度・複数教員による卒業論文執筆要項」という箇所は、部外者にはわかりにくい表現であるので、今後の改善をヒアリングの場で要望した。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 人文学部

基準 4 教育課程・学習成果 (3)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0407	「学生による授業評価」の回答率が低い科目や、「教員による授業自己評価」の回答率が低い教員がいる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
• 2020 年度秋学期（春学期は実施せず）から 2022 年度秋学期の教員による授業自己評価回答率は、途中の多少の増減はあるが 74.7%から 84.3%に改善してきている一方、同期間の学生による授業評価の回答率 50%にも届かず、依然として低い[0407a]。引き続き、学期末の回答時期には、各教員が担当授業内で受講生に回答を促すことを徹底していく。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0407	GPS-Academic 等の調査結果のシステマティックな活用がなされていない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度秋学期には、IR 推進課より以下のデータを取り寄せて、各学科で分析し、各種傾向などをまとめているところである[0407b][0407c]：■学籍番号・氏名・入学年度・所属 2 コード（名称）・性別区分（名称）・在籍状態区分（名称）・学年コード（名称）・最終年度・最終セメスタ期区分（名称）・入学手段・入学時高校名・高校ランク・高校評定平均・高校課程・高校課程・各学年終了時通算 GPA・2022 年度終了時通算 GPA・転学科等の情報（どの学科からの転入なのかも含めて）■GPS-Academic の「経験」「学びへの態度」「学びへの意欲」■学びに関する調査の個別回答内容■HF 科の「フレッシュマンテストの結果」。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0407	コミュニケーション学科は、新学科の設立に向けて、教育課程およびその内容・方法をさらに準備する必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
メディア情報社会学科の設置に向けて、学科会議等を通して準備を行い 2023 年 4 月に届出申請を行った [1120r pp.77-80][0407d]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0406	学位授与の方針 (DP) に明示した学生の学習成果を IR データも踏まえて適切に把握し、評価していますか。	自己評価	S
評価の視点	<p>(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。</p> <p>(2) 【学部のみ】 成績分布、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果に関する情報の把握と共有 <p>(3) 学習成果を把握・評価するために、以下の方法を用いて改善・向上に取り組んでいますか。</p> <p>≪学習成果の測定方法例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト (GPS-Academic) ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 (学びに関する調査 等) ・卒業生、就職先への意見聴取 			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の学習成果を測るための評価方法や評価指標は、各科目のシラバスに明記し[0403d]、各学生の学習成果を把握および評価するためには、教育支援ポータルサイト (Tora-net portal) の学修ポートフォリオにある各学生の GPA の推移を活用している[0406a]。 ・ 4 年間の学びの集大成である「卒業研究」に関して、各学科ではそれぞれの DP を意識した独自のルーブリックで主査と副査が評価している [0405e]。 ・ 成績分布と科目からのドロップアウト率については、科目単位では、毎年刊行される『教育・研究活動に関する実態資料』に掲載される各科目のデータで検証しているが、学部学科全体での成績分布やドロップアウト率は把握していない [0406b]。 ・ 進級状況については、人文学部教授会において共有されている [1120d pp.108-109]。 ・ GPS-Academic については、受検率を上げて信頼性のある学習成果を把握・評価するために、主任会や教授会で各学科からの協力を依頼し、1 年生は「スタートアップセミナー」内で、3 年生については各ゼミ内での指導を徹底するよう求めている[1120h pp.28-29]「1120d pp.75-77」。また、活用方法について各学科からの意見をまとめて教務委員会に提出している[0406c]。さらに、各自が「第 55 回 FD・SD 講演会：学生の人間力育成の向上にむけて—GPS-Academic の結果報告と今後の活用について—」 [0406d] に参加したり、教務支援課から提供される GPS-Academic 学生面談カルテ[0406e]をもとに退学に至る可能性のある学生の面談を行ったり見守ったりするが、学部学科全体で改善に活かすためのシステマティックな分析を行う場はまだない。 ・ 「学びに関する調査」に関しては、自己点検・評価の全学的課題「IR データを活用した要支援学生への早期対応と要因の分析」の中・長期スパンによる対応の一貫として、各学科が「学びに関する調査 2021・2022 年度 集計結果【左右で比較可能版】」も用いてそれぞれの状況を分析し、学部長がワークショップで学部の状況をとりまとめて報告した[0406f][0406g][0406h]。 ・ 卒業生への意見聴取としては、卒業時に「学びに関する調査」を行っており、その結果 2022 年度は 88.2% の回答率であった。「後輩へ伝えたいメッセージ・アドバイス」も募り、その結果を大学 HP で公表している[0406i]。 ・ コミュニケーション学科や歴史地理学科では、「GPS-Academic」及び「学びに関する調査」の結果に加えて学生の基本情報(GPA、退学・休学等の状況、入試区分等)を照らし合わせながら学科の教員で分析を行っている [0406j] [0406k]。 ・ 英語英米文化学科では、TOEIC を定期的実施することで、学生の学習成果を客観的に測定・把握・評価し、その結果を蓄積・分析して習熟度別クラス分けの資料としている [0406l]。 ・ 教育支援ポータルサイト (Tora-net portal) の学修ポートフォリオの学生情報は、指導教授のみ閲覧可能であるため、コミュニケーション学科では、全教員を全学年の学年担当にすることで、指導学生のみならず、学科の全学生のポートフォリオの情報 (出席状況、単位取得状況、各科目の成績、各学期の GPA 等) を閲覧可能にして、情報を共有できるようにしている [0406m]。 				
自己点検・評価項目	0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針 (DP)、教育課程編成・実施の方針 (CP) に基づき、IR データも活用して定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	S
評価の視点	<p>(1) 適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を行っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習成果の測定結果の適切な活用 			

	(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。
現状説明	
<ul style="list-style-type: none"> 授業内容及び方法の適切性については、「学生による授業評価」等に基づき、教員各自が点検・評価を行い、次年度以降の授業改善につなげている[0404e]。 各教員が年度ごとに重点目標を掲げ、その中で『魅力ある授業づくり』のための試み・活動・「学生の指導・支援活動」・「そのほかの教育活動」の3項目について年度末に達成度および改善点について自己点検・評価を実施し、次年度以降の改善・向上に努めている [0407e]。 学習成果として教育支援ポータルサイト (Tora-net portal) のポートフォリオ上の GPA, 評価, および成績情報等を用い、特に単位取得率の低い学生には、当該学期末から翌学期始めにかけて面談を行って教育支援ポータルサイト (Tora-net portal) のポートフォリオに面談記録を残すなど、個別指導に活用している [0407f]。 	

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0406	英語英米文化学科では、TOEIC を定期的実施することで、学生の学習成果を客観的に測定・把握・評価し、その結果を蓄積・分析して習熟度別クラス分けの資料としている [0406l]。
項目 No. 0406	<ul style="list-style-type: none"> GPS-Academic については、受検率を上げて信頼性のある学習成果を把握・評価するために、主任会や教授会で各学科からの協力を依頼し、1年生は「スタートアップセミナー」内で、3年生については各ゼミ内での指導を徹底するよう求めている[1120h pp.28-29][1120d_2020-2022年度 pp.75-77]。また、活用方法について各学科からの意見をまとめて教務委員会に提出している [0406c]。
項目 No. 0407	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション学科や歴史地理学科では、「GPS-Academic」及び「学びに関する調査」の結果に加えて学生の基本情報 (GPA, 退学・休学等の状況, 入試区分等) を照らし合わせながら学科の教員で分析を行っている [0406j] [0406k]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み (予定) および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0407	「学生による授業評価」の回答率が相変わらず低い。
今後の改善・向上方策	
2020 年度秋学期 (春学期は実施せず) から 2022 年度秋学期の学生による授業評価の回答率は、依然として低い [0407a]。引き続き、学期末の回答時期には、各教員が担当授業内で受講生に回答を促すことを徹底していく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	GPS-Academic に関しては、学部学科全体で改善に活かすためのシステマティックな分析を行う場はまだない。
今後の改善・向上方策	
今後 WG を作って、どのように進めていくのがいいかから検討する。	

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 人文学部

基準 5 学生の受け入れ

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0502	学生が途中退学することは学生・大学の双方に不幸なので、募集要項に最低限必要な学力あるいは適性を示す必要がある。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none">2022 年度に、学部全在籍者の出身校、高校ランク、評定平均、入学手段、GPA、在籍状態区分などの IR データ（ただし、2020 年度以前に退学した者は含まれない）を分析した [0502a]。在籍状態別の異動では、休学率に関しては、入学手段による差は小さかった [0502a]。この結果より、近年では、総合的学力を測る実技実習等の選抜方法が洗練されてきた（A0）ポートフォリオ入試はそれほど問題があるわけではないことがわかった。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0504	A0 ポートフォリオ入試以外の入試種では根拠資料に基づいた定期的な検証ができていなかったとのことなので、他の入試種に関しても定期的にデータの分析を行い、CP に従って学修できる入学者を選抜できるような体制づくりを目指すことが望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none">上述の通り、2022 年度より IR データの分析から入学手段による学力レベル差や在籍状態の傾向などを分析している [0502a]。また、現在、DP、CP の改訂途上であり、それが決まり次第、併せて AP の改訂版も作成することになるため、その際には、それぞれの学科の専門分野を学ぶ上で必要となる能力やスキルについて明確に示すよう留意する予定である。さらに、2024 年度より、一般推薦・指定校推薦・同窓生推薦の入試では、適性検査を導入するため、それらの入試では選抜の一環に学力レベルを加味できることになる。学部で入手した IR データは、各学科でも独自に分析し、今後、入学者選抜方法についての見直しや入学前指導への活用を検討する [0504a][1120t pp.141-143][0406k]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0504	日本語日本文化学科では、特技推薦受験者の受け入れ条件の必要性を感じている。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
日本語日本文化学科では、学科会議において、受け入れに国語の評定 3.0 以上という条件をつけたいという意見があり [1120p]、特技推薦受験者の条件の検討が課題となっているが、学部学科が単独で決められることではないため、検討は進んでいない。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0503	定員を確保できてきない学科は、志願者確保に努めているが、募集定員を安定的に満たすことができていない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none">英語英米文化学科では、志願者安定確保のため、学部長裁量経費で更新した学科パンフレットを印刷してオープンキャンパスで説明に活用し、学科独自で制作しているニューズレターを資料請求者に送付し、SNS を活用した広報活動に努めているが、2023 年度入試においても、募集定員を満たすことはできなかった [0503a][0503b][0503c]。今後、学生を出身高校に派遣して、学科紹介を行ったり、その成長ぶりを担任の先生に見ていただいたりするなど、各種方策を検討・実行していく。コミュニケーション学科では、入学者数の安定確保のため、2024 年の新学科設立に向けて、新学科イ	

ベントの実施や web サイト、パンフレット等広報物の発行を行い、新学科 PR と入学希望者の確保に努めている[0503d][0503e][0503f]。2023 年 3 月に 2 回実施した新学科イベントでは高校生、保護者が多数来場し[0503g p.7]、現在準備中のアーカイブ映像の配信などによりさらに学生募集につなげる。

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0501	入学者受入れの方針(AP)を定めて、公表していますか。	自己評価	S
評価の視点	(1)学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。 (3)【新学科・新専攻設置時のみ】社会に対し公表していますか。 (4)下記を踏まえた AP を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> 卒業認定・学位授与の方針(DP)および教育課程編成の方針(CP)に定める教育を受けるために必要な能力・性質をもつ「求める人間像」を学部および各学科において「入学者受入れの方針(AP)」として規定し、大学 HP 上の「情報公開」のページに掲載している[0401a]。近年では、高校生に向けて理解しやすいように従来のものに「高校学校段階までに身につけてほしいこと」を追加した。 入学前の学習歴、学力水準、能力等について、求める人間像 6 項目と高等学校段階までに身につけてほしいこと 5 項目を AP に示している。また入学希望者に求める水準等の判定方法を入試種別ごとに示している。[0501a]。 				

自己点検・評価項目	0502	入学者受入れの方針(AP)に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)AP と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合性 (2)AP に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程編成・実施の方針 (CP) との関連性			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> 受入れ方針は、入試種別ごとに求める人間像が明記され、試験形態と対応しており、入学センター会議からの依頼により、定期的に点検することが求められる[0501a]。 概ね、CP に定める教育を受けるために必要な能力を判定できる試験方法をとっているが、特にポートフォリオ入試においては学科が主導で選抜できるため最も求める学生像と入試形態との整合性が高い[0502b]。入学者選抜において透明性を確保するための措置の一つとして、一般入試に関しては過去問題を公表し、ポートフォリオ入試については入試要項に前年度の方法が記載されている [0502c][0502b]。 ただし、DP④「広い関心・自律的意欲」の項目が人文学部独自のものであるため、求める人物像を他の学部学科と合わせて一律にしてしまっている大学 HP の記述では、DP④に対応する求める人物像の記載がないため、2024 年度に向けて 3 つのポリシーを改訂する際には修正する必要がある[0401a]。 				

自己点検・評価項目	0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	自己評価	A
評価の視点	入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率			

	<ul style="list-style-type: none"> ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程, 博士課程】 ・収容定員に対する在籍学生数比率
現状説明	
<ul style="list-style-type: none"> ● 定員に対する入学者数比率, 収容定員に対する在籍学生数比率, 収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応は, 入試における合格者数, および, 退学者数, 留年者数等の抑制努力により, 極力調整している[0503h][0503i]。編入学定員に対する編入学生数の比率は低い[0503j]。 ● 2019 年度入試から 2023 年度入試で, 日本語日本文化学科は 3 回, 英語英米文化学科は 4 回, コミュニケーション学科は 1 回の定員割れを起こしているが, 学部全体の定員充足率は, 2021 年度入試の 0.998 以外は, 1.0 から 1.6 の間に収まっている[0503i]。 ● 収容定員に対する在籍学生数比率は, 英語英米文化学科で 2021 年度と 2022 年度に 1.0 を割り, 逆にコミュニケーション学科では 2022 年度に 1.11, 心理学科では 2019 年度に 1.11, 歴史地理学科では 2022 年度に 1.10, 2022 年度の 1.09 であり, 後者 2 学科においては過剰気味である。その他の学科・年度では, 概ね 1.0 から 1.06 の間に収まっている[0503i]。 ● 上述のように, 学科, 学年(入学年度)によっては, 定員超過や逆に定員割れなどがあるが, 学部全体では概ね許容範囲内に収まっているのが現状である [0503j]。 ● 心理学科では, 2020 年度以来定員を上回る入学者を受け入れているため, 公認心理師対応に伴う入学者定員について学科会議で議論を行い, 十分な教育の質を保証した上での適切な入学者の確保が必要であることを確認した[1120s p.9]。 ● 同様に歴史地理学科では, 2022 年度, 2023 年度入試での入学者が定員を大幅に超えている[0503j]。同学科では, 毎年 4 月にスタートアップセミナーのクラス分けを通じて入学者数が報告され, また年度末には翌年度の指導教員を検討することを通じて, 在学者数が適正な範囲内であることを確認している。[0503h][0503j]。 	

自己点検・評価項目	0504	学生募集および入学者選抜は, 入学者受入れの方針(AP) に基づき, IR データも活用し, 公正かつ適切に実施されているか定期的に検証を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・委員会等における根拠資料に基づいた定期的な検証 (2) 自己点検・評価の結果に基づき, 各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> ● 学部・学科主体で行われるポートフォリオ入試の入学者選抜方法については, 過去の入学生の入試時の状況とその後の学習成果等を資料として, 各学科で必要に応じて検討しているが, その他の入試種では根拠資料に基づいて定期的に検証するには至っていなかったため, 2022 年度には IR データをもとに分析を開始し, 次回入試にその結果を活かせるよう検討している [0502a][0406k]。 ● いずれの学科でも, 学科会議で選出した学生募集・広報担当者 2 名(英語英米文化学科は 3 名), ポートフォリオ入試担当者 1 名を中心に, 学科の入学者受入れの方針(AP)に基づき, 学生募集および入学者選抜を公正かつ適切に実施し, 実績に基づいて翌年度の見直し材料としている[1120j]。 ● また, 人文学部主任会で作成する「教育研究に係る学部等重点事業計画」の内, 学園ビジョン 2-1-5, 2-2-2~2-2-8 に関連して, 「志願者・入学者の安定確保」「戦略的広報の展開」などの項目で, 以下の活動を行っている: 入学センターと連携した広報活動の実施・点検・改善, 学部学科のアピールポイントの点検・改善, 学部独自の学生募集活動(オープンキャンパスイベントガイド[0504b]・ニューズレター作成[0504c]・送付, 併設校懇談会[0504d][0504e], A0 ポートフォリオ入試方法の点検・改善, 定員確保・質的充実に向けての指定校と推薦基準の見直し(英語英米文化科で 2 件の基準引き上げ)[1120q p.2], 女子生徒の志願者数拡大(目標値:45%以上)などの目標を掲げている[0504f]。 ● さらに, これを受けて各学科は学科会議で審議し, 必要な動きを起こして目標達成に向けて努力し, その成果は, 検証の上, 2023 年度「教育研究に係る学部等重点事業計画」に 2022 年度の活動実績として記載することになる[0504f]。 ● また, IR データに関しては, 2022 年度より「GPS-Academic」及び, 「学びに関する調査」の結果に加えて在籍者データ(在籍状態・入学手段・出身校・高校ランク・通算 GPA など)を照らし合わせながら学科の教員で分析をおこなっており, 今後学生募集や入学者選抜方法の検証・改善に繋げる[0502a]。 ● 英語英米文化学科では, 新入生の入試種別と出身高校, フレッシュマンテストの結果を用いて, 入学者選抜が公正・適切に実施されているかを検証している [0504g]。また, 新入生を対象としたアンケートを実施し, 入試種別による関心事の違いなどについて学科会議で検証している [0504h]。また, 独自のニューズレターを資料請求者に年 3 回送付し, 定期的に学科 SNS を更新して学科の情報を発信して志願者確保に努めている[0503b][0503c]が, 今のところ募集定員を満たすことができていない。 				

- 心理学科では、定員、基準について [1120s pp.3-4, p.9], 指定校推薦の基準等の見直しの必要性について [1120s pp.5-7, p.9], 編入試験の小論文の評価について [1120s p.8], 併設校からの推薦入試の定員について [1120s p.21], 推薦入試の適性検査, 学科として課す科目について [1120s pp.35-37], 学科会議で継続的に検討して改善を検討している。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0504	人部学科の特色と求める人物像を社会に広く発信しより適切な人材を確保するため、5 学科が協力して代表的なゼミや、在校生の活躍、特徴的な授業などを紹介するニューズレターを年 4 回作成し、入学センターへの接触者に送付している [0504c]。
項目 No. 0504	併設校（中部大学第一高等学校）と年 2 回の懇談会を催し、被推薦生徒と出身学生の情報を交換して、より適切な学科選びに役立てている [0504e]。
項目 No. 0504	英語英米文化学科では、独自のニューズレターを資料請求者に年 3 回送付し、定期的に学科 SNS を更新して学科の情報を発信して PR している [0503b][0503c]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0503	学科／学年によっては、定員超過／定員割れがある。
今後の改善・向上方策	
全学科が適正な入学者数を確保するため、今後も各学科で方策を検討して実行していく。コミュニケーション学科では、負の流れを断ち切るため、2024 年に新学科を設立するが、設置に向けて新学科広報のためのイベント実施や web サイト、パンフレット等広報物の発行を行い、新学科 PR と入学希望者の確保に努める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0502	DP④「広い関心・自律的意欲」の項目が人文学部独自のものであるため、求める人物像を他の学部学科と合わせて一律にしまっている大学 HP の記述では、DP④に対応する求める人物像の記載がない。
今後の改善・向上方策	
2024 年度に向けて 3 つのポリシーを改訂する際には修正する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0501 学生募集の方針と入学者選抜の方法（AP）は、卒業認定・学位授与に関する基本的な方針（DP）および教育の実施に関する基本的な方針（CP）を踏まえて、入学前学習歴、学力水準、能力等の求める学生像が大学ホームページならびに入試要項にて社会に対して明確に公表されている [0401a][0501a]。入試要項には、入学希望者に求める水準等の判定方法が入試種別ごとに示されている [0501a]。学科の特徴を捉えた AP がわかりやすく示されている点が大変参考になる。	
0502 入試種別と重視する学生像が対応しており [0501a]、概ね CP に定める教育を受けるために必要な入試形態をとっている。求める学生像と入試種別との整合性が高い入試としてポートフォリオ入試を捉えていること、ならびに両者の整合性を高める措置として入学者選抜の透明性を高めていることが評価できる	

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 人文学部

基準 6 教員・教員組織

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0602	コミュニケーション学科では、課程維持に必要な教員数確保のため、2021年度に向けた人員補充が急務である。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
コミュニケーション学科では、2021年度に1名（実質的には司書課程の科目担当）、2022年度に2名の教員が着任したことから、教員数は9名となり、男女比（男性：5 女性：4）及び年齢（30代3名、40代2名、50代2名、60代2名）についても偏りなく、バランスのとれた構成となり、課題は解決した【0602a】【0602b】。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0602	教員組織として、年齢・職位・男女比・専門分野に偏りがある学科がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none">学部全体として、年齢についてはほぼ適切な分布となっている【0602b】が、職位では日本語日本文化学科（教授7、准教授1、講師・助教0）と歴史地理学科（教授8、准教授3、講師・助教0）に大きな偏りがあり、男女比に関しては日本語日本文化学科（男2女6）と英語英米文化学科（男7女1）と歴史地理学科（男9女2）に偏りがある点は解消に至っていない【0602a】。今後も引き続き、長期的な人事計画を検討し、関係部署に働きかけ、より適切な教員組織構成を目指す。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2020年度から2022年度にかけては、いずれの学科でも新規採用または昇格人事が発生しており、その度に学科の人事計画書を作成したため、これを以て自己点検・評価としてみなすことができる【0605a】。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	自己評価	A
-----------	------	---	------	---

評価の視点	(1)大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。
	(2)教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・各学位課程の目的に即した教員配置 ・国際性、男女比 ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ・各組織における将来計画の設定 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師または助教）の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮
現状説明	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員組織に関して、法定定員が30名であるところ現員数は44名であるため、法定定員は満たしているといえる [0602d]が、教員あたりの学生数に関しては、心理学科で46.3人となっており全学平均の22.3人の2倍以上となっている [0602e]。 ・実務経験のある教員については、英語英米文化学科以外では配置できている[0602f]。 ・教員組織としての年齢構成は、いずれの学科も概ね大きな問題はなく、特にコミュニケーション学科では30代3名、40代2名、50代2名、60代2名であり偏りなくバランスのとれた構成となっている。しかし、職位の構成では日本語日本文化学科（教授7、准教授1、講師・助教0）と歴史地理学科（教授8、准教授3、講師・助教0）に大きな偏りがある。男女比に関しては日本語日本文化学科（男2女6）と英語英米文化学科（男7女1）と歴史地理学科（男9女2）に偏りがある一方、コミュニケーション学科では、男5人女4人でバランスの取れた構成となっている [0602a] [0602b]。 ・英語英米文化学科では、英語母語話者を含む教員による指導体制を整えており、国内外での博士号取得者もいる [0602a]。 ・2020年度から2022年度にかけては、いずれの学科でも新規採用または昇格人事が発生しており、その度に学科の将来計画の設定を行って、組織の自己点検・評価を行っている[0605a]。 	

自己点検・評価項目	0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定 (2)規程等に従った適切な教員人事（募集、採用、昇任等）を実施していますか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の募集・採用・昇格等に関しては「人事審議会規程」「教育職員の人事の手続に関する細則」、「中部大学教員資格基準に関する申合せ事項」、「2020年度/2021年度/2022年度人事に関する手続きについて」、および、「人文学部昇格基準申し合わせ」によって整備されている[0603a][0603b][0603c][0603d][0603e]。 ・規程等に従った適切な教員人事（募集、採用、昇任等）を実施し、2020年度には、採用人事2件、昇格人事3件、任期付教員再雇用1件、2021年度には、採用人事4件、昇格人事7件、2022年度には、採用人事1件、昇格人事3件、任期付教員再雇用2件が人事審議会で承認された[0603f]。 				

自己点検・評価項目	0604	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)FD活動を組織的に実施していますか。 (2)教員の教育活動、研究活動、社会活動等を評価し、その結果を活用していますか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> ・学部長と5学科のFD委員、人文学部事務長で構成する人文学部FD・SD委員会を設置し、FD活動を組織的かつ多面的に実施している [0604a]。 ・前年度末に次年度の重点目標の設定を「FD活動推進計画書」で行って、全学のFD委員会に提出し点検を受け、当該年度の翌年度始めに目標の達成度を振り返る活動報告書を全学のFD委員会に提出して点検を受け、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげている[0604a]。 ・学部全体としては、春と秋に、教員の資質向上および教員組織の改善・向上に資する内容のFD講演会を開催し、ま 				

た春学期には学生も対象としてセクハラ防止啓発講演会を開催している[0604a]。
 ● 歴史地理学科では、年に1~2回、FD活動の一環として教員・学生が参加して議論できる講演会を開催し、教員の資質向上に・改善につなげている [1120t pp.90 -94, pp.115-118]。

自己点検・評価項目	0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施し、その結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> 毎年刊行される『教育・研究活動に関する実態資料』で公表される個別研究者の研究活動の状況、教員組織の状況などから、教員組織の適切性が検証できる [0406b pp.240-352]。『教育・研究活動に関する実態資料』の「I 教育活動」の「3. 授業の開講状況」の「(4)③成績評価分布状況」から、各人の教員としての素養がある程度判断できる（例えば、極端に成績の甘い講義や不合格率の高い講義の有無。こうした講義の場合講義内容や成績基準に課題のある可能性が高い）。また、「II 研究活動」の「1. 著書・学術論文・研究発表の状況」からは、各人の研究者としての素養がある程度判断できる。さらに、「III 教員組織の状況」の「1. 法令定員と教員組織」から法的な適切性は判断できる。また、「2. 大学教員の構成」から、年齢別、男女別、職名別教員構成や、他学部他学科に比しての相対的な状況などがわかり、教員組織の適切性が検証できる。各学科では、こうした資料を利用して中長期的視点から新規採用人事や昇格人事を計画し、教育課程の運営にとって最適な教員組織となるよう点検している[0406b pp.240-352] [0605a]。 歴史地理学科では、学科で退職者が生じる際に、教員組織の適切性を主に学問分野を指標として検討している [1120t pp.111-118, pp.122-140]。 				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0602	英語英米文化学科では、国内外での博士号取得者や英語母語話者を含む教員による指導体制を整えている[0602a]。
項目 No. 0602	コミュニケーション学科では、男女比（男性：5 女性：4）及び年齢（30代3名、40代2名、50代2名、60代2名）について偏りなくバランスのとれた人員構成となっている [0602a][0602b]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0602	大半の学科で、教員組織として職位、年齢層、男女比に偏りがある[0602a][0602b]。
今後の改善・向上方策	
学科の教員組織における職位、年齢層、男女比の偏りを是正すべく、中長期的ビジョンをもって学科の人事計画を策定して着実に実行していくよう努める。特に、日本語日本文化学科のように今後退職者が続く学科においては、新陳代謝を促す人事計画を早急に検討し、担当者に働きかけて実現できるよう努める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0602	心理学科では、S/T 比が高く、教員の授業担当負担への適切な配慮が必要な状況となっている [0602e]。
今後の改善・向上方策	

心理学科では、構成員の減少により、教育および学科運営にあたって全員が多忙を極めており、2022年度末には臨床心理学担当の1名が定年を迎え、2023年度は特任として在籍できることになったものの週2日の勤務であり、1年限りの措置とされたため、さらなる欠員の補充に向けて担当者に働きかけているところである。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0602	歴史地理学科では、「ヨーロッパ近現代史」と「経済地理学」の専任教員の補充が必要である[0602a]。
今後の改善・向上方策	
歴史地理学科では、2022年度は全11回中の7回の学科会議で新規採用者の専門分野に関して、様々な方策を検討し要望を行ったが、ここまでのところでは叶えられていないため、今後も継続的に担当者に働きかけていく。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 7	学生支援
------	------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	不就職者（就職を希望しない者）の人数が他学部に比べて多いため、その抑制の方策を検討することが望まれる。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<ul style="list-style-type: none"> 不就職者（自営・進学は除く）の割合は、減少傾向ではある。これは、学部独自でキャリアカウンセラーに依頼して個別対応のシステムを導入したことや、早い段階から学生をキャリア支援課に繋ぐなどの対応をした結果と考えられる。とはいえ、依然として理系学部に比べると比率は高いため、さらなる抑制の方策を引き続き検討する【0702a】。 	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(2)学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する合理的配慮 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応 <p>(4)学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み <p>(5)学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の実施 ・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施 <p>(6) 【研究科のみ】 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定または当該機会に関する情報提供 <p>(7) インターンシップを実施していますか。</p> <p>【学士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実したインターンシップの実施 <p>【修士課程, 博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施可能な体制の整備
--	---

現状説明

- 大学全体としては、学生の能力に応じて補習教育、補充教育などを学習支援室において行なっており、学習支援室に関しては、各学科のオリエンテーション時にパンフレットを配布するなどして存在を周知している[0702b]。日本語日本文化学科では、入学直後に日本語の IRT 診断テストを受けさせ、評価が高校 2 年生以下のレベルの学生を対象に CoursePower のテスト機能を活用して補習を行っている[0702c]。心理学科では、学生の能力や公認心理師受験資格取得に必要な実習への参加等に鑑み、無理のない卒業研究のあり方について議論し、より適切な基準・方針の設定を図っている。[1120s pp. 5-7, p. 14, pp. 26-27, p. 30]。
- 正課外教育としては、大学全体で独自の資格（地域創成メディエーター等）や留学プログラム等を用意して、座学に留まらない豊かな体験を提供している[0702d][0702e]。日本語日本文化学科では、学生の要望に対応した学生支援として、学生が原稿執筆から発行までを手がける「J-style」という雑誌を支援している。この雑誌は 2005 年から現在まで続いており、学生が自主的に創作作品を執筆し、特集記事の企画や取材を行っている。これは、学生の能力に応じた正課外教育ともなっている[0702f]。コミュニケーション学科では、地域創生メディエーターの「動く」の活動として、小牧市連携事業のこまきこども未来館プロジェクトを提供している[0702g]。
- 留学生、障がいのある学生等の多様な学生に対する修学支援は、大学全体としては、国際センター（留学生）や学生支援課のほか、学生相談室・保健管理室などの健康増進センターが行なっている[0702h]。また各学科では、障がいやその他の理由による学生に対する配慮については、学科会議において情報が随時共有されている [1120p pp. 58-59] [1120t pp. 141-143]。コミュニケーション学科においては、留学生に対し上級生が留学生サポーターとしてフォローしている[1120r pp. 77-80][0702i]。心理学科では、心身の健康に問題をもつと思われる学生に関する情報を学科で共有し、対応について議論・検討している[1120s p. 21, pp. 26-27, pp. 29-30, pp. 33-36p. 38]。
- 留年者については、単位取得不足学生として主に年度末から年度始めにおいて、指導教授が呼び出し指導を行って状況把握をするとともに、履修指導を行っている[0702j][1120r p. 79]。休学者・退学希望者については、指導教授が面談して状況を把握した上で学長宛の意見書を作成し、主任・学部長の点検を受けた上で学生支援課等を経て、教授会で審議している[1120d pp. 90-91]。人文学部では、休学・退学の早期予防に活用すべく、大学共通の調査が始まるずっと以前より、独自に休学・退学理由の集計を行って、毎年の学長ヒアリング用の資料作成の際に集計結果をもとに対策を検討している[0702k][0702l]。
- 学生の相談については、全学的にオフィスアワーを設けて、主に指導教授が対応しているが、場合によっては学科主任や学部長も相談にのっている。ハラスメント防止のための啓発活動について、「スタートアップセミナー」の授業の一環として、人文学部主催の「セクシャルハラスメント防止講演会」に 1 年生全員に参加を求めている [0702m]。コミュニケーション学科では、早い時期に新入生全員の面談を行い、状況を把握して教育支援ポータルサイトの Tora-net 上の学修ポートフォリオの面談記録で共有し、問題点があれば早急に対応している[0702n]。
- キャリア支援に関しては、各学科のキャリア開発委員がキャリア支援課と連携し、進路選択に関わるガイダンスやキャリア支援講座等、各種キャリア・プログラムへの誘導を行ったり、4 年生の進路状況調査を毎月実施して未内定者をキャリア支援課に繋いだりしている[0702o]。また、学部独自の取り組みとして、夏から年末時点での未内定者に向けて外部講師（キャリアカウンセラー）に依頼して就職セミナー・相談会を開いている[0702p]。こうした支援体制の成果を示す数値として、2022 年度には就職内定率は、最終的に 5 学科中 4 学科が 100%となった [0702a]。英語英米文化学科では、活躍する卒業生や内定獲得者の体験談を聞く機会を年 1 回設け、在学生のキャリア支援を行っている[0702q]。心理学科では、キャリア心理学の講義を担当する非常勤講師に依頼し、就活講座・個別相談会・フォローアップ面談などを頻繁に実施している。[1120s p. 20, pp. 24-25, pp. 35-37, p. 41]。歴史地理学科では、4 年生に対する毎月進路調査がやや形式的な支援に止まっており、学芸員・大学院進学・公務員を志望

する学生や、企業への就職活動と教職課程の履修を同時に進める学生に十分に対応することができていない。

- インターンシップについては、学部共通の正課科目として「インターンシップABC」を設置しているが、この3年間は COVID-19 の影響により、ほとんど参加できていない[0702r]。

自己点検・評価項目	0703	学生支援の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	S
評価の視点	(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> • 各学科の学科会議における、学生募集関係の議題以外のほとんど全ての議題が、修学、学生生活、進路に関する適切な支援を実行することに関連しており、その意味では、常に学生支援の適切性について検討がされ、支援体制・方法の改善・向上に取り組んでいるといえる[1120p][1120q][1120r][1120s][1120t]。 				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0702	日本語日本文化学科では、正課外活動として、学生が原稿執筆から発行までを手がける「J-style」という雑誌の刊行を支援している[0702f]。
項目 No. 0702	コミュニケーション学科においては、上級生が留学生サポーターとしてフォローをしている[1120r pp. 77-80][0702i]。
項目 No. 0702	障がいのある学生に対する修学のための合理的配慮について、学科会議にて主任から常に詳細な情報の共有と配慮の依頼がなされている。[1120u pp. 58-59][1120t pp. 141-143][1120s p. 21, pp. 26-27, pp. 29-30, pp. 33-36p. 38]
項目 No. 0702	人文学部では、休学・退学の早期予防に活用すべく、大学共通の調査が始まるずっと以前より、独自に休学・退学理由の集計を行って、毎年の学長ヒアリング用の資料作成の際に集計結果をもとに対策を検討している[0702k][0702l]。
項目 No. 0702	ハラスメント防止のための啓発活動について、「スタートアップセミナー」の授業の一環として、人文学部主催の「セクシャルハラスメント防止講演会」に1年生全員に参加を求めている [0702m]。
項目 No. 0702	英語英米文化学科では、活躍する卒業生や内定獲得者の体験談を聞く機会を年1回設け、在学生のキャリア支援を行っている[0702r]。
項目 No. 0702	学部独自の取り組みとして、年末時点での未内定者に向けて外部講師（キャリアカウンセラー）に依頼して就職セミナー・相談会を開いている[0702p]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	現在は、障がいのある学生や問題を抱えた学生の支援は、学生相談室・保健管理室が中心となって行っているが、問題行動が見られる学生や学生トラブルへの対応方法に関する手順などが定められていない。
今後の改善・向上方策	
<p>配慮や支援が必要な学生をただ、学生相談室・保健管理室につなぐだけではなく「合理的配慮」の重要性が高まっているため、各教員で大学に求められている「合理的配慮」の視点について熟知し、自らも対応できるようにする。また、問題行動が見られる学生や学生にトラブルが発生した場合の対応や支援方法、対応手順などのフローを検討しておく。</p>	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	進路指導面で、これまで4年生に対して毎月進路調査のためのアンケートを実施し、学生の進路状況の把握と指導に努めてきたが、やや形式的な支援に止まっている。学芸員・大学院進学・公務員を志望する学生や、企業への就職活動と教職課程の履修を同時に進める学生に十分に対応することができていない。
今後の改善・向上方策	
これまで実施してきた進路（就職活動）支援プログラムを継続する一方で、学芸員・大学院進学・教職を含めた幅広い意味での進路に関する啓発活動を試みる必要がある。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
<p>0702 学生の能力に応じた補習教育として、日本語日本文化学科では、入学直後に日本語のIRT診断テストを受けさせ、CoursePowerのテスト機能を活用して補習を行っている[0702c]。</p> <p>0702 正課外教育として、日本語日本文化学科では、学生が原稿執筆から発行までを手がける「J-style」という雑誌を支援している [0702f]。コミュニケーション学科では、小牧市連携事業のこまきこども未来館プロジェクトマップ・プロジェクトを提供している[0702g]。</p> <p>0702 留学生等の多様な学生に対する修学支援として、コミュニケーション学科では、留学生に対し上級生が留学生サポーターとしてフォローしている。</p> <p>0702 障がいのある学生に対する合理的配慮については、各教員で「合理的配慮」の視点について熟知し、自らも対応できるようにすることが課題である。問題行動が見られる学生や学生トラブルへの対応方法に関する手順などは定められていない。</p> <p>0702 学部独自で休学・退学理由の集計を行って対策を検討している[0702k][0702l]。</p> <p>0702 学生の相談については、指導教授を中心に、学科主任や学部長も応じている。</p> <p>0702 ハラスメント防止のための啓発活動について、「スタートアップセミナー」の授業の一環として、人文学部主催の「セクシャルハラスメント防止講演会」に1年生全員に参加を求めている[0702m]。</p> <p>0702 心身の健康維持・増進および安全への取り組みについては、コミュニケーション学科では、早い時期に新入生全員の面談を行い、学修ポートフォリオの面談記録で共有し、早急に対応している[0702n]。</p> <p>0702 キャリア支援に関しては、学部独自で外部講師（キャリアカウンセラー）による就職セミナー・相談会を開いている[0702p]。英語英米文化学科では、活躍する卒業生や内定獲得者の体験談を聞く機会を年1回設けている[0702q]。また心理学科では、キャリア心理学の講義を担当する非常勤講師に依頼し、就活講座・個別相談会・フォローアップ面談などを頻繁に実施している[1120s p.20, pp.24-25, pp.35-37, p.41]。歴史地理学科では、4年生に対する毎月進路調査がやや形式的な支援に止まっており、学芸員・大学院進学・公務員を志望する学生や、企業への就職活動と教職課程の履修を同時に進める学生に十分に対応することができていない。</p> <p>0702 インターンシップについては、学部共通の正課科目として「インターンシップABC」を設置している。</p> <p>0702 成績不振学生の状況把握と指導について、学科会議での共有を中心に日常的定期的に適切に行われていることをヒアリング事前質問にて確認した。[1120p p.31 1120q p.40 p.49 p.55] [1120r p.79 p.98] [0702-02]</p> <p>0703 各学科の学科会議において常に学生支援の適切性について検討がされ、支援体制・方法の改善・向上に取り組んでいる[1120p] [1120q][1120r][1120s][1120t]。</p> <p>以上のように、学生支援の体制整備及び適切な実施について、若干改善の余地があるものの概ね取り組んでいるといえる。また、学生支援の適切性について定期的に自己点検・評価を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っている。</p>

長所・特色	
0702	学生の能力に応じた補習教育として、日本語日本文化学科では、入学直後に日本語のIRT診断テストを受けさせ、CoursePowerのテスト機能を活用して補習を行っている[0702c]。
0702	学生が原稿執筆から発行までを手がける「J-style」という雑誌を支援している [0702f]。
0702	小牧市連携事業のこまきこども未来館プロジェクトマップ・プロジェクトを提供している[0702g]。
0702	留学生に対し上級生が留学生サポーターとしてフォローしている。
0702	学部独自で休学・退学理由の集計を行って対策を検討している[0702k][0702l]。
0702	ハラスメント防止のための啓発活動について、「スタートアップセミナー」の授業の一環として、人文学部主催の「セクシャルハラスメント防止講演会」に1年生全員に参加を求めている[0702m]。
0702	学部独自で外部講師（キャリアカウンセラー）による就職セミナー・相談会を開いている[0702p]。
0702	活躍する卒業生や内定獲得者の体験談を聞く機会を年1回設けている
0702	キャリア心理学の講義を担当する非常勤講師に依頼し、就活講座・個別相談会・フォローアップ面談などを頻繁に実施している[1120s p. 20, pp. 24-25, pp. 35-37, p. 41]。
0702	インターンシップについては、学部共通の正課科目として「インターンシップABC」を設置している。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項	
0702	障がいのある学生に対する合理的配慮については、各教員で「合理的配慮」の視点について熟知し、自らも対応できるようにすることが課題である。【B】
0702	問題行動が見られる学生や学生トラブルへの対応方法に関する手順などは定められていない。【B】
0702	歴史地理学科では、4年生に対する毎月進路調査がやや形式的な支援に止まっており、学芸員・大学院進学・公務員を志望する学生や、企業への就職活動と教職課程の履修を同時に進める学生に十分に対応することができていない。【B】

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
0702	01	成績不振学生の指導報告書	△
0702	02	英語英米文化学科_学生情報共有メール例	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 人文学部

基準 8 教育研究等環境

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0802	2019 年度より、スタジオ設備の管理が人文学部に移ったため、今後の教育研究等環境の適切性について、学部改組の方向等とも合わせて検討する必要がある。【B】
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度の課題事項としても「コミュニケーション学科は、学部を代表して今後も人文学部スタジオ設備の改修工事を要望する必要がある」と記載し、2022 年度の学長ヒアリングに「学部共通科目『クロスオーバーDGs プロジェクト』学内活動／研究拠点の整備費用①：271D スタジオのリフォーム（窓の増設，床・壁の貼替 7,500，什器 1,500）」として要望を出した結果、予算がついたためスタジオについては 2023 年度夏に改装予定である[0702k][0802a]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0806	心理学科は、282A (PC 室) の代替室を少しでも充実させ工事期間中の実験や卒業研究の質を低下させないようにしなければならない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
28 号館の解体に合わせ、従来 28 号館にあった資料室と実験室を 25 号館と 26 号館の講義室と空き研究室 16 室を利用して分散して設置して浸いでいる[0806a]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0806	歴史地理学科では、史料実習室の設置に向けて、実現可能な提案内容を協議・検討し、設置が認められない場合の教育方法などを検討する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022 年度の学長ヒアリングに「『クロスオーバーSDGs プロジェクト D~H』の活動拠点として、資史料実習室整備 約 15,000，25 号館 3 階（客員教授室，253F ゼミ室）想定。ただし、新棟に設置できれば、費用を抑えられる可能性がある」との要望を提出した[0702k]。しかし、予算はつかなかったため、今後の活動方法を授業が始まる秋学科までに検討する[0802a]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> 日本語日文化学科、コミュニケーション学科、歴史地理学科は、PC 設置 (54 台) 教室として 2514 講義室を共同利用・管理し、それぞれの授業に必要なソフトウェアをインストールして活用している[0802b] [0802c]。 日本語日文化学科では、教育研究環境を充実させるために、学科予算で日本語、日本文学、日本文化に関する雑誌を定期購入し、歴史地理学科と共同で使用している 25 号館 3 階の印刷室で保管している。学生の閲覧にも供するように、開架式の書庫のようになっている。学科の正課外教育の成果である「J-style」の編集作業のために、25 号館 2 階の準備室を使わせている。ここは、教材資料や、恵那研修、オープンキャンパスで使用する道具類の保管場所としても利用している[0802d]。 英語英米文化学科では、学部長裁量経費とマルチメディア教室費を利用して、マルチメディア教室の老朽化が進んでいた LAN ケーブルと学生用の椅子を交換し、受講生が快適に利用できるよう設備の充実を図った[0802e][0802f]。 コミュニケーション学科は、映像・音響情報デザイン等の授業に人文学部スタジオ施設の映像スタジオ、音響・編集スタジオを利用している。建物の構造や防音設備は近隣大学の同種の設備としては随一であるものの、テレビスタジオ・音響スタジオの機器は老朽化している。今後は、学部共通科目「クロスオーバーSDGs プロジェクト A~H」の教育研究活動拠点として 2023 年度に改装予定である[0802a]。また、コミュニケーション学科では、2022 年度より音響デザイン等の講義で使用するアプリ及びキーボードを購入するなどして教育環境を整備した[0802g]。 心理学科では、COVID-19 対策として、管財部と連携し、282A の窓の設置、さらに学科予算から各実験室にアクリル板の設置等を行い、できうる限りの最善の対策を行った[1120s pp.2-4]。また、心理学科では、28 号館建て替え工事中の対応について、新棟 WG が中心となって管財部と議論、連携し、工事期間中、学生の教育・研究活動に支障がでないよう、人文学部の教員研究室を実験室に、2513 講義室を 282A に充当することを決めた。またそのための準備・引越し作業を管財部に依頼し、整備を行った[1120s pp.24-25, p.28]。理工学部と共用になる新棟の実験室、設備について議論し、検討を行っている[1120s p.31, pp.33-34]。 歴史地理学科では、教育・研究のための講義室・ゼミ室・研究室は、受講者数や必要な機材・設備等に応じておおむね適切に割り当てられているが、なお不十分な場合もある。製図室と資料室(兼・複写室)については、管理担当者を決めて適切に管理しているが、両室ともに、重要な史料や地図を保管し、教育・研究に有効に活用するには、現状では手狭である。講義室・ゼミ室の変更などは、担当教員が個別に対応しており、学科としては状況を把握していない。学科教員・学生が使用する複写室のコピー機が老朽化したため、共用している日本語日文化学科として協議して交換した [1120t pp.67-71]。 				

自己点検・評価項目	0805	研究倫理を遵守するために必要な措置を講じ、適切に対応していますか。	自己評価	A
評価の視点	研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組みをしていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理、研究活動に関する規程の整備 ・教員および学生における研究倫理確立のための機会等の提供（コンプライアンス教育および研究倫理教育の定期的な実施等） ・研究倫理に関する審査委員会等の設置 			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> 研究倫理、研究活動不正防止については、「中部大学研究倫理委員会規程」が整備されており、倫理審査委員会が開催されている[0805a]。 研究倫理、研究活動不正防止の啓発活動としては、教員に対して「研究ガイドブック」が配布されているほか、卒業研究を行う学生に対しては「研究の心得」が配布されている[0805b][0805c]。また、人文学部教授会において、研究倫理教育及びコンプライアンス教育を実施している[1120d pp.75-77]。さらに、eAPRIN に関しても 5 年に一度受講するように指示しており、人文学部では 2022 年度において 84.9%の受講率であった[0805d]。 心理学科では、学生に対しては毎年度「スタートアップセミナー」で、研究倫理を取り扱う回を設け、研究倫理確立のための教育を行っている[0805e]。 				

自己点検・評価項目	0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施し、その結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> 毎年学長ヒアリング資料として作成する「〇〇年度以降における教育・研究に係る学部等重点計画案について」を作成する際に、必要な教育研究環境について学科から状況を聞き取り、必要に応じて「事業計画に係る経費の概算」に記載し、中期予算調査票に載せている[0702k]。 日本語日本文化学科では、25号館3階の印刷室も25号館2階の準備室も保管するものが増え、年々手狭になったため、定年退職する教員の研究室を学科の準備室として使用できるように交渉し、使用できることになった [1120u pp. 66-67]。 				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0805	日本語日本文化学科では、25号館3階の印刷室で保管している雑誌を学生の閲覧にも供するようにしている[0802c]。
項目 No. 0802	英語英米文化学科では、マルチメディア教室を授業だけでなく自習用に学生に開放し、稼働率ほぼ100%で活用している [0802f]。
項目 No. 0802	コミュニケーション学科では、2022年度より音響デザイン等の講義で使用するアプリ及びキーボードを購入するなどして教育環境を整備した[0802g]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0806	学部共通・学科独自の教育研究設備の充実
今後の改善・向上方策	
<ul style="list-style-type: none"> 2023年度より新規に導入する学部共通科目「クロスオーバーSDGs プロジェクト A~H」の教育研究活動拠点として、272C・272D スタジオの改修予算を確保できたため、各プロジェクトに要望などを調整して、予算が許す限りの理想的な教育研究環境を実現する。 日本語日本文化学科では、研究室の図書が増えすぎたため、図書を保存、管理する設備の充実を図る。退職した教員の研究室を学科の準備室として新たに使用できるように交渉し成立したため、今後、学科教員だけでなく、学生の研究や学びにも利用できるような環境を整える。 心理学科では、理工学部と共用になる新棟で、今まで以上に使いやすく、充実した実験室、設備を整えることにより、IT教育や研究活動をいっそう向上させていくために各種交渉等を行う。 	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 9 社会連携・社会貢献

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	日本語日本文化学科は、学内イベントによる地域交流には貢献しているが、学科として社会連携・社会貢献に関する方針を設けていない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学科として社会連携・社会貢献に関する方針はまだ検討できていないが、今後、本学の学内イベントとしての「日本伝統文化推進プロジェクト」との連携も含めて検討する予定。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	歴史地理学科は、2019年度は地域貢献活動としての講演会／シンポジウムを開催したが、開催は不定期である。今後、計画的に実施することを点検できる機会を設ける。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2022年度に講演会「子孫が語る日米の架け橋～ジョン万次郎の生涯～」を主催した [1120t pp.111-118]。シンポジウムの開催については、積極的に様々な内容で開催していく方向が確認された [1120t pp.133-136]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	自己評価	S
評価の視点	(2)社会連携・社会貢献に関する教育研究活動を組織的に推進していますか。 ・国際交流・地域交流事業への参加等			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> 人文学部は、生涯教育のエクステンションカレッジに提供している科目が、COVID-19 禍前に選定した2020年度春学期は全99科目中47科目、秋学期は95科目中35科目であり、他学部に比べてかなり多い[0902a]。それだけ地域住民に対して多大な貢献をしているといえる。 教員個々の活動としては、地域連携講座を担当したり[0902b]、例えば、愛知県、名古屋市、春日井市などの教育委員会における文化財に関わる仕事や街づくり計画の仕事等を委嘱されている者が多数いる [0902c]。 日本語日本文化学科は、学科として社会連携・社会貢献に関する方針を設けてはいないが、教員個々の活動として、例えば、愛知県、名古屋市、春日井市などの教育委員会における文化財に関わる仕事を委嘱されている[0902c]。 				

また、本学の「日本伝統文化推進プロジェクト」と共催という形で「日本舞踊講演会：無駄なことにも宝はある」という講演と、「伝統話芸の世界」という公演を開催し、大学周辺住民を中心とした地域交流に役買った[0902d][0902e]。

- 英語英米文化学科では、高校英語教員を対象とした英語教育セミナーを年1回開催している [0902f]。また、岩手県立大学・オハイオ大学の教職員・学生とともに、岩手県で震災復興支援国際ボランティア活動を行い、社会貢献・社会交流に携わっている [0902g]。
- コミュニケーション学科では、OJTによる社会連携・社会貢献を前提とした「文化情報デザイン・プロジェクトA～D」(ゼミ相当)内で、愛知県陶磁美術館との連携によるナイトミュージアム企画運営、春日井商工会議所・春日井市商店街連合会と連携した企業のPRビデオ制作・「まちゼミ」運営協力・高齢者向けスマホ教室開催、「商人塾」支援、JR春日井駅大型デジタルサイネージへの春日井市PR映像の提供、地域包括支援センターや社会福祉協議会からの依頼によるご高齢者スマホ教室、小牧市こまきこども未来館プロジェクトマッピング制作、地元企業との連携でのSDGs教育絵本の制作・出版・春日井市と小牧市に各100冊贈呈、春日井市と小牧市での絵本読み聞かせボランティア、高蔵寺NT老人会と連携したWikipediaタウンプロジェクト企画運営、稚内市連携自律型移動ロボットによる地域情報資源収集・蓄積・提供システム構築、恵那市連携飯地五毛座地歌舞伎のアーカイブ制作、グリーンシティケーブルテレビ社CATV開局30周年記念イベントでのプロジェクションマッピングなど、数多くの地域貢献活動を展開している[0902b]。こうした活動は、社会貢献そのものであるが、例えば全中部大学「ESD・SDGs研究・活動発表会(学長賞受賞)や、愛知学長懇話会 SDGsリレーシンポジウム(愛知教育大学学長賞受賞)、全国学生交流会などで報告して成果を公表して評価を得ている[0902h][0902i][0902j]。また、小牧のプロジェクションマッピングは、2021年度に地域創成メディエーター資格取得の「動く」の活動にも認定され、2021年度、2022年ともに7名の地域創成メディエーターを輩出している[0902k]。
- 心理学科では、2011年から「学習教室きみいろ」で経済的困難をかかえる中学生の学習支援が行なわれており、春日井市からの委託事業として認定されていた(2020年度まで)。スタッフは主に心理学科の学生であった[0902l]。
- 歴史地理学科では、2022年度に講演会「子孫が語る日米の架け橋～ジョン万次郎の生涯～」を主催した[1120t pp.111-118]。シンポジウムの開催については、積極的に様々な内容で開催していく方向が確認された [1120t pp.133-136]。さらに、学科費で購入した京大工平松家関係文書の目録データベースを作成し、学科ホームページで公開する準備をしている [1120t pp.129-132]。また、学科所属教員が、大学主催の地域連携講座において講師として登壇している[0902b]。中部大学アクティブアゲインカレッジにおいても、学科所属教員が講師として授業を担当している [0902m] [0902n]。
- 国際交流活動については、2018年度に部門間学術交流協定を結んだ台湾の中国文化大学外国語文學院[0902o]と夏期華語文化研修講座(中国文化大学外国語学部日本語文科学科主催)や日本語教員養成講座の教育実習を通して学生の交流を行う予定であったが、2020年度から2022年度はCOVID-19の影響により叶わなかった[0902p]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0902	人文学部は、生涯教育のエクステンションカレッジに開放している科目が多い[0902a]。
項目 No. 0902	周辺自治体等の教育委員会における文化財に関わる仕事や街づくり計画の仕事等を委嘱されている者が多数いる[0902b]。
項目 No. 0902	日本語日本文化学科は、本学の「日本伝統文化推進プロジェクト」と共催で、日本伝統文化に関するイベントを企画し、地域交流に貢献している[0902d][0902e]。
項目 No. 0902	英語英米文化学科では、高校英語教員対象英語教育セミナーを実施し、国際ボランティア活動を通じた岩手県の震災復興支援に貢献している[0902f] [0902g]。
項目 No. 0902	「学習教室きみいろ」は春日井市からの委託事業として認定されていた(2020年度まで) [0902l]。
項目 No. 0902	歴史地理学科は、学科所属教員がその専門を生かして、多様なテーマで講演会/シンポジウムを企画・実施しているほか、市民向け講座の講師を務め、社会貢献活動に積極的に関与している[0902b] [1120t pp.111-118] [0902m] [0902n]。

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	人文学部
--------	------

基準 11 大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	歴史地理学科では、2021 年度は議事録の作成・配付が遅れたことがあったため、今後の改善に努める。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
歴史地理学科では、2021 年度には議事録の作成、配付が遅れることがあったが、その後は会議後およそ 10 日以内に学科主任補佐が議事録を作成し [1120a]、学科主任が確認したのちメールで配信し、当文書を学科構成員が確認する手続きをとるように改善された。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	日本語日本文化学科では、学科の管理運営に関する申し合わせ事項を文書化したが、その他の学科ではまだ明文化はしていない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
コミュニケーション学科では、学科の管理運営に関する申し合わせ事項を文書化した[1120b]が、英語英米文化学科、心理学科、歴史地理学科ではまだ行っていないため、今後も、管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行う。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていき	自己評価	S
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
<ul style="list-style-type: none"> 人文学部教授会規程に基づき、人文学部教授会を設置している。定例教授会は 8 月を除く毎月第 3 水曜日とし、全学的会議からの学部長報告、教育課程の変更、学生異動等の審議の他、各種委員会からの報告、その他学部の情報共有および連携を図っている[1120c]。人文学部教授会は、持続的に業務内容の点検を行っており、議事録を作成して学部長承認後に電子メールにて構成員全員で共有し、承認を得ている [1120d]。2020 年度は、COVID-19 の影響で、新型コロナウイルス感染症対策本部長より「4 月 15 日に開催予定の教授会・研究科委員会は、対面以外 				

による方法での開催について可とします。」との通知があり、第4回(7月)まではメール開催とし、第5回(9月)から第8回までは対面開催、第9回からはzoom参加併用とした。2021年度、2022年度も対面開催を原則としながらもオンライン出席も可とした[1120e]。また、2020年度にオンライン出席を可として以来、下記主任会資料同様、教授会資料もデジタル化して議事とともに事前に配布し、ペーパーレス化を進めている[1120f]。

- 人文学部教授会規程に基づき、人文学部主任会を設置している。人文学部主任会は、「人文学部主任会運営申し合わせ」に則り、学部長、副学部長、学部長補佐、学科主任、学科主任補佐、事務長で構成され、8月を除く毎月定例教授会の1週間前(第2水曜日)に開催され、教授会審議事項の事前確認および調整をはじめとして、教授会に関する事項を取り扱っている[1120g]。会議資料はデジタル化して議事とともに事前に配布し、ペーパーレス化を進めている[1120f]。議事録は、学部長承認後に電子メールにて構成員全員で共有し、承認を得ている[1120h]。
- 人文学部主任会運営申し合わせに基づき、人文学部自己点検・評価委員会(主任会と一体)、人文学部入学者選抜委員会、人文学部FD・SD委員会、人文学部紀要編集委員会、人文学部中・高教職支援委員会が設けられ、それぞれの規程/申し合わせに則って必要に応じて開催されている[1120i][1120j]。各委員会の議事録は事務職員、または、書記役の教員が作成し、委員会構成員に送って承認を得ている[1120k][1120l][1120m][1120n]。
- 各学科では、「学科会議運営申し合わせ」に則り、学科会議を8月を除く毎月最低1回(概ね第3水曜日)に開催し、人文学部主任会、その他委員会からの課題について報告・審議し、また構成員から個別に議題設定を募り、学科内の情報共有、および、連携を図っている。突発的な問題が生じた場合は、臨時会議を開き、問題に対応している。英語英米文化学科では、学科会議を第2、第4火曜日に開催している。[1120o][1120p][1120q][1120r][1120s][1120t]。
- 各学科の管理運営組織は、人文学部内諸委員(および、学科によっては学科内役割担当者)で構成され、教員全員が学科の管理運営に携わる組織となっている。管理運営組織の膠着を避けるために、人文学部内諸委員および学科内役割担当者の任期を定めている学科もある[1120u][1120b]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1120	教授会、および主任会の会議資料を事前にサイトにアップロードして、ペーパーレス化に努めている[1120f]。
項目 No. 1120	英語英米文化学科は、月2回の定例学科会議を開催し、可能な限り最新の情報を共有している[1120q]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み(予定)および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1120	日本語日本文学学科では、持続的に業務内容の点検を行う必要性を感じている。
今後の改善・向上方策	
今後、定例学科会議において随時見直していく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1120	英語英米文化学科・心理学科・歴史地理学科では、学科内の管理運営の役割について、任期や業務内容を明文化する必要がある。
今後の改善・向上方策	
2023年度中に管理運営組織に関わる学科内の申し合わせを作成する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1120	歴史地理学科では、学科管理運営上、諸問題の抽出を容易にするため議事録の記述をさらに可視的にする必要を感じている。
今後の改善・向上方策	
2021年度は議事録の作成、配付が遅れることがあったので、今後はそのようなことのないようにする。また、会議をさらに活性化し、円滑な学科運営に結びつける。課題事項を鑑み、議事録作成について、報告事項・議題ともなるべく要点を具体的に記述するように注意を払う。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
1120 学部の管理運営組織および教育研究組織においては持続的に業務内容の点検を行っている判断できるが、学科レベルでは管理運営組織に関わる学科内の申し合わせ等が不十分な学科があり、業務内容の点検において支障となっていることも否めない。課題で挙げているように複数の学科において、早急に会議・役割等の管理運営に関する申し合わせ事項の対応が望まれる。	
長所・特色	
特になし	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項	
1120 英語英米文化学科，心理学科，歴史地理学科の管理運営に関する申し合わせ事項を早急に作成し、業務内容の明文化をはかり、業務点検が可能な体制を整えることが必要である【A】。	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

組織名

人文学部

基準 (シートNo.)	根拠資料No.		根拠資料の名称	提出 区分
	項目No.	記号		
1. 理念・目的 (NF0101)	0102	a	人文学部各学科WEBページ https://www.chubu.ac.jp/academics/humanities/japanese/ https://www.chubu.ac.jp/academics/humanities/english/ https://www.chubu.ac.jp/academics/humanities/communications/ https://www.chubu.ac.jp/academics/humanities/psychology/ https://www.chubu.ac.jp/academics/humanities/history/	○
	0102	b	2024年度からの各学科のDP	○
	0101	a	メディア情報社会学科設置趣旨	○
	0102	c	学生便覧2022 https://www2.chubu.ac.jp/current_students/curriculum_section/pdf/bi_nran_under_2022.pdf	○
	0102	d	人文学部_教育研究上の目的 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/	○
	0102	e	人文学部5学科_学科紹介パンフレット	○
	0102	f	大学HP 情報公表「大学の基本理念・使命・教育目的, 学部の教育研究上の目的」 https://www.chubu.ac.jp/about/philosophy/ https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/humanities/	○
	0102	g	人文学部5学科「スタートアップセミナー」シラバス	○
2. 内部質保証 (NF0201)	0203	a	人文学部学科間ピアレビューサンプル	○
4. 教育課程・学習成果(1) (NF0401)	0401	a	大学HP 情報公表「学部学科 3つのポリシー」 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/humanities/ https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/japanese/ https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/english/ https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/communications/ https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/psychology/ https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/history/	○
	0401	b	学生便覧校正依頼_2022	○
	0401	c	教務支援課DPの見直しおよび中部大学で身につく汎用力対応表の作成のお願い	○
	0402	a	教務支援課学科CPCMCT科目と汎用力表の作成のお願い	○
	0403	a	科目ナンバリング表 https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/kamokunum.pdf	○
	0403	b	現行カリキュラムマップ https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/41hj.pdf https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/42hf.pdf https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/43hi.pdf https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/44hw.pdf https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/45hh.pdf	○
	0403	c	シラバス第三者点検依頼文	○
	0403	d	シラバスサンプル「グローバルSDGs人文学」(2022年度) https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slssbdr.do?value(rikyunen)=2022&value(smekikn)=1&value(kougicd)=12955&value(crclumcd)=01040000002016	○
	0403	e	HF_2024年度教育課程の変更	○
	0403	f	HI_プロジェクト募集要項_2022	○
	0403	g	HW_公認心理師法附則第二条	○

4. 教育課程・学習成果(2) (NF0402)	0404	a	2022年度 授業評価実施要領 https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2022/06/classevaluation_schedule2022.pdf	○
	0404	b	公認心理師大学カリキュラム 標準シラバス	○
	0404	c	HJ_シラバス 基礎演習 https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slbssbdr.do?value(rikyunen)=2022&value(smekikn)=1&value(kougicd)=26876&value(crclumcd)=01044100002016	○
	0404	d	HW_心理演習シラバス https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slbsskgr.do	○
	0404	e	授業評価結果公表2019-2022 https://quest.chubu.ac.jp/LessonEval/SEARCH200VIEW.do?from=JH401	△
	0404	f	「学びに関する調査」の集計結果2021-2022 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/evaluate/manabi/	△
	0404	g	2022年度 人文学部 受講者人数制限科目	○
	0404	h	科目ごとの受講者数一覧[2022年度春学期]	○
	0404	i	各学科必修科目担当者(シラバス) https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slbsskwr.do	○
	0404	j	HF_英語英米文化学科開講クラス数(複数クラス)	○
	0404	k	2022年度 履修相談	○
	0404	l	履修ピア依頼等メール 2020-2022年度	○
	0405	a	「グローバルSDGs人文学」におけるメールのやり取り	○
	0405	b	HF_TOEIC演習Aシラバス	○
	0405	c	成績確認期間『学生部便』No. 194・No. 195	○
	0405	d	2022 年度卒業研究シラバス(全学科) https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slbssbdr.do?value(rikyunen)=2022&value(smekikn)=1&value(kougicd)=13015&value(crclumcd)=01044100002016 https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slbssbdr.do?value(rikyunen)=2022&value(smekikn)=1&value(kougicd)=13089&value(crclumcd)=01044200002016 https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slbssbdr.do?value(rikyunen)=2022&value(smekikn)=1&value(kougicd)=13149&value(crclumcd)=01044300002016 https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slbssbdr.do?value(rikyunen)=2022&value(smekikn)=1&value(kougicd)=13191&value(crclumcd)=01044400002016 https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slbssbdr.do?value(rikyunen)=2022&value(smekikn)=1&value(kougicd)=13246&value(crclumcd)=01044500002016	○
	0405	e	卒業研究評価ルーブリック表(全学科) https://quest.chubu.ac.jp/LessonEval_rubric/L001LOGIN.do	○
	0405	f	卒業研究マニュアル	○
	0405	g	卒業研究口頭試験例 コミュニケーション学科 2020-2022年度	○
	0405	h	学位規程 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/regulation/main.php?menu=search	○
0407	a	授業評価回答率 2020秋-2022秋 https://quest.chubu.ac.jp/LessonEval/img/answer202202.pdf	○	
0407	b	各学科IRデータの利用方法と欲しいデータ	○	
0407	c	情報データ提供依頼書	○	
0407	d	新学科申請書類	△	
0406	a	学生のGPAの推移 https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/chart/chrtgslt.do?buttonName=selectCategory&categoryIndex=2&categoryGroupIndex=2	△	
0406	b	2021『教育・研究活動に関する実態資料』(2022年度版は未刊) https://www2.chubu.ac.jp/news_documents/faculty_staff/university_education/2021_main_part.pdf	●	
0406	c	GPS-Academicの活用方法について	○	
0406	d	第55回FD・SD講演会のご案内	○	

(様式1-4)

4. 教育課程・学習成果(3) (NF0403)	0406	e	面談カルテの送付について	○	
	0406	f	2022年度 自己点検・評価 全学的課題	○	
	0406	g	学びに関する調査の分析依頼	○	
	0406	h	WS発表資料	○	
	0406	i	2022年度「学びに関する調査」卒業時 https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2023/04/facts-figures-evaluate-manabi-sotsu-2022-01.pdf	○	
	0406	j	HI_IRデータを分析した記録	○	
	0406	k	HH 歴史地理学科IRデータ表	○	
	0406	l	HF 英語英米文化学科TOEIC得点分布	○	
	0406	m	HI 指導教授分担表A_2020-2022年度	○	
	0407	e	教員活動重点目標・自己評価シート	○	
	0407	f	学修ポートフォリオGPA・評価・成績情報 https://toranet.sti.chubu.ac.jp/chart/chrtgsltside.do?buttonName=selectGakse&gakseknoIndex=1	○	
	5. 学生の受け入れ (NF0501)	0502	a	IRデータ	△
		0503	a	HF 英語英米文化学科パンフレット	○
		0503	b	HF 英語英米文化学科ニューズレター 第22号	○
0503		c	HF 英語英米文化学科Instagramアカウント	○	
0503		d	HI 新学科イベントチラシ	○	
0503		e	HI新学科パンフ4p版	○	
0503		f	HI_メディア情報社会学科ティーザーサイト https://media.ac-chubu.jp/	○	
0503		g	学園報_no582	○	
0501		a	学力試験入試要項 https://www.chubu.ac.jp/admissions/entrance-exams/guide/	○	
0502		b	ポートフォリオ入試要項 https://www.chubu.ac.jp/news/wp-content/uploads/sites/3/2022/09/admissions-entrance-exams-guide_PF2023_yoko_final.pdf	○	
0502		c	入試前期A過去問題	○	
0503		h	在籍者数/収容定員_2019-2022	○	
0503		i	集計入学者数在学者数	○	
0503		j	入学者数2019-2023	○	
0504		a	HI コミュニケーション学科臨時学科会議議事録 IR分析記録	○	
0504		b	2019夏オープンキャンパスス人文学部イベントガイド	○	
0504		c	人文学部ニューズレター#1-#4	○	
0504		d	第一高校出身者情報	○	
0504		e	中部大学第一高等学校教員との情報交換会報告_2020-2022	○	
0504		f	2023・2024年度以降における教育研究に係る学部等重点事業計画	○	
0504	g	IRデータ：フレッシュマンテスト結果]	△		
0504	h	HF 英語英米文化学科新入生アンケート結果	○		
6. 教員・教員組織 (NF0601)	0602	a	教員情報人文学部_202305 https://www2.chubu.ac.jp/about/faculty/list/belongs.php?syozone_rec_no=17&ga=2.54130536.1315948904.1683855471-1279745.1562727390 https://www2.chubu.ac.jp/about/faculty/list/belongs.php?syozone_rec_no=18&ga=2.54130536.1315948904.1683855471-1279745.1562727390 https://www.chubu.ac.jp/academics/humanities/communications/ https://www2.chubu.ac.jp/about/faculty/list/belongs.php?syozone_rec_no=20&ga=2.7438194.1315948904.1683855471-1279745.1562727390 https://www2.chubu.ac.jp/about/faculty/list/belongs.php?syozone_rec_no=21&ga=2.13130743.1315948904.1683855471-1279745.1562727390	○	
	0602	b	人文学部年齢表	●	
	0602	c	教員数_2022 https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2022/07/facts-figures-data-info-1-6.pdf	○	
	0605	a	人文学部人事計画書_2020-2022	●	
	0602	d	法令定員と教員組織2022 https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2022/06/facts-figures-data-info-1-5.pdf	○	

	0602	e	教員当たりの学生数 (2022年度) https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2022/06/facts-figures-data-info-1-7.pdf	○	
	0602	f	実務経験のある教員等による授業科目の一覧表_人文学部	○	
	0603	a	中部大学人事審議会規程 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/psychology/	○	
	0603	b	教育職員の人事の手続に関する細則 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/history/	○	
	0603	c	中部大学教員資格基準に関する申合せ事項 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/regulation/main.php?menu=search	○	
	0603	d	人事に関する手続きについて 2020-2022	○	
	0603	e	人文学部昇格・採用基準申し合わせ	○	
	0603	f	人事審議会議事録 (人文学部関係分) 2020-2022年度	○	
	0604	a	0601_FD活動推進計画書・FD活度評価点検報告書 2020-2022年度	○	
	7. 学生支援 (NF0701)	0702	a	進路状況2020-2022	○
0702		b	中部大学_学生生活_学習支援室 https://www.chubu.ac.jp/student-life/support/study-support-room/	○	
0702		c	HJ_IRT診断テスト	○	
0702		d	2022年度地域創成メディエーター「動く」活動一覧	○	
0702		e	グローバル活動一覧 2022	○	
0702		f	HJ_日本語日本文学科学科学生機関誌 “J-style”	○	
0702		g	HI_こまきこども未来館 大型壁面演出プロジェクト発表資料	○	
0702		h	健康増進センター https://www.chubu.ac.jp/student-life/support/health-promotion/	○	
0702		i	留学生サポーターに関するメール	○	
0702		j	指導依頼2021F/2022S	○	
0702		k	学部等重点計画案について2020-2022	○	
0702		l	退学・休学理由表および退学者数推移と理由2022	○	
0702		m	セクハラ防止啓発講演会チラシ・実績報告	○	
0702		n	HI_1年生の面談の報告・依頼等メール	○	
0702		o	進路状況調査票サンプル	○	
0702		p	就職相談チラシ2020-2022	○	
0702		q	HF_英語英米文化学科就活セミナーチラシ	○	
0702		r	インターンシップ参加状況2020-2022	○	
8. 教育研究等環境 (NF0801)	0802	a	2022年度学長ヒアリング結果 (人文学部)	○	
	0806	a	心理学科資料室・実験室 2022-2023	○	
	0802	b	施設紹介2514講義室 https://www.chubu.ac.jp/academics/humanities/communications/facilities/	○	
	0802	c	2514講義室 PC環境	○	
	0802	d	HJ_配置図	○	
	0802	e	HF_マルチメディア教室端末見直し	○	
	0802	f	HF_マルチメディア教室の使用状況	○	
	0802	g	HI_コミュニケーション学科キーボード購入記録	○	
	0805	a	中部大学研究倫理委員会規程 https://www2.chubu.ac.jp/faculty_staff/regulation/main.php?menu=search	○	
	0805	b	研究ガイドブック https://www.chubu.ac.jp/documents/digibook/research-guide/html5.html#page=1	○	
	0805	c	研究の心得 https://www2.chubu.ac.jp/current_students/digibook/fundamentals_of_research/html5.html?_ga=2.17560569.1315948904.1683855471-1279745.1562727390#page=1	○	
	0805	d	eAPRINの受講状況について (3月31日現在)	○	
	0805	e	HW_2022年度スタートアップセミナーシラバス	○	
		0902	a	人文学部0902a: 中部大学_2019春・秋_オープン☑ (エクステンション) カレッジ開講科目一覧	○
		0902	b	連携講座 2020-2022	○
0902		c	文化財委員等 2020-2022	○	
0902		d	HJ_日本舞踊講演会チラシ	○	
0902		e	HJ_伝統話芸の世界チラシ	○	

(様式1-4)

9. 社会連携・社会貢献 (NF0901)	0902	f	HF_英語英米文化学科英語教育セミナー開催チラシ	○	
	0902	g	HF_岩手県立大学復興防災学習プログラム開催日程	○	
	0902	h	HI_中部大学ESD通信 vol. 36, 37	○	
	0902	i	HI_第12回 愛知学長懇話会SDGsリレーションポジウム	○	
	0902	j	HI_令和4年度全国学生交流会チラシ	○	
	0902	k	地域創成メディエーター資格認定者数_2021, 2022	○	
	0902	l	HW_学習教室さみいろHP	○	
	0902	m	HH_2022年度CAAC授業担当者一覧表(2022年4月~7月)	○	
	0902	n	HH_2022年度CAAC授業担当者一覧(2022年9月~2023年3月)	○	
	0902	o	中国文化大学との学術交流協定計画書	○	
	0902	p	日本語教員養成講座 台湾教育実習派遣 2020-2022年度 メール	○	
	11. 大学独自の評価項目 (NF1101)	1120	a	HH_議事録送信日記録	○
		1120	b	HI_コミュニケーション学科_学科管理運営に関する申し合わせ	○
1120		c	中部大学人文学部教授会規程	○	
1120		d	人文学部教授会議事録_2020-2022年度	○	
1120		e	人文学部教授会開催通知_2020-2022年度	○	
1120		f	中部大学人文学部教授会・主任会・研究科委員会資料サイト https://www3.chubu.ac.jp/humanities/faculty_staff/humanities_faculty/	○	
1120		g	人文学部主任会運営申し合わせ	○	
1120		h	人文学部主任会議事録_2020-2022年度	○	
1120		i	人文学部各種委員会 規程・内規	○	
1120		j	人文学部内各種委員・担当者名簿_2020-2022年度	○	
1120		k	人文学部入学者選抜委員会議事録_2020-2022年度	○	
1120		l	人文学部FD・SD委員会議事録_2020-2022年度	○	
1120		m	人文学部紀要編集委員会議事録_2020-2022年度	○	
1120		n	人文学部中・高教職支援委員会議事録_2020-2022年度	○	
1120		o	人文学部学科会議運営申し合わせ	○	
1120		p	日本語日本文化学科_学科会議議事録_2020-2022年度	○	
1120		q	英語英米文化学科_学科会議議事録_2020-2022年度	○	
1120		r	コミュニケーション学科_学科会議議事録_2020-2022年度	○	
1120		s	心理学科_学科会議議事録_2020-2022年度	○	
1120		t	歴史地理学科_学科会議議事録_2020-2022年度	○	
1120	u	日本語日本文化学科_管理運営に関する申し合わせ事項_2021年度]	○		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管